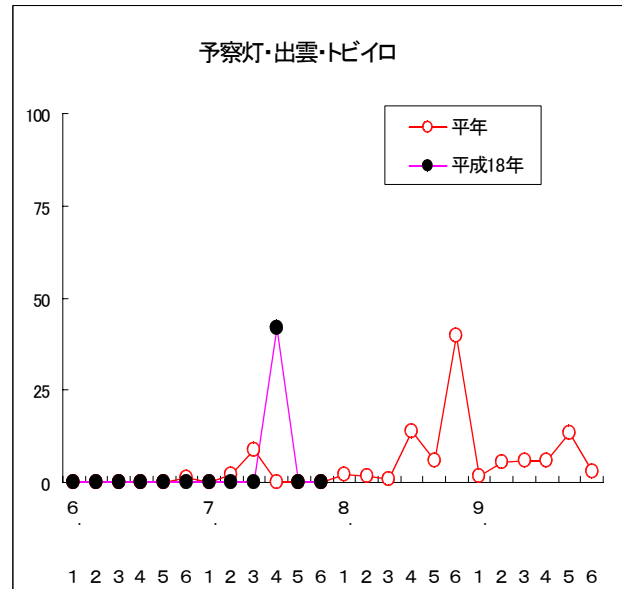


トビロウンカの密度が高い！

★トビロウンカ

7月6日に初飛来（出雲市）を確認しました。その後、18日に下層ジェット気流に乗った飛来波が県東部を中心に確認できました。この飛来波は過去10年間で平成15年に次ぐ大量飛来です。

九州地方では7月上旬から多飛来が観測されています。



7月下旬の巡回調査では寄生虫数 0.6 頭/50 株（※平成 10 年 1.8 頭）、発生圃場率 24.1% (平成 10.1%) で過去10年間で平成10年に次いで多い発生量です。調査時点ではすべて成虫でしたので、幼虫が肉眼で確認できるのは8月第1～2半旬頃と思われます。この頃が第1世代幼虫の防除適期となると思われるので、圃場での発生状況に注意してください。

※平成10年の多飛来の影響が大きく、同年を除外すると 0.1 頭/50 株となる。

H18	平均	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8	H7
0.6	1.8	0	0	0.3	0	0	0	0.04	17.6	0.2	0.1	0.3

頭/50 株

今年の飛来は例年と異なり、県東部に多く飛来がありました。本種は定着した場所で世代を繰り返し坪枯れを引き起こします。今後、圃場環境の違いで発生量は変わりますが、常発地はもとより従来発生が少なかった地域でも注意してください。

★セジロウンカ

7月下旬の巡回調査では、寄生虫数 101.2 頭/50 株（平成 81.9 頭）、発生圃場率 82.8% (平成 81.6%) とともに平成並みです。新成虫は成熟の進んだイネからは離脱していきませんが、葉色の濃い若いイネでは今後も成虫・幼虫の加害に注意してください。

防除対策

薬剤による防除は本県農作物病害虫雑草防除指針に基づき適切に行ってください。

※次回のウンカ情報は、8月10日に予定しています。

担当：病虫 G・小塚